

炷合式内辨祓書

ヲ多9

1338

21



追善ノ件ハ祝銘不用ナドヨキ留メテ用意

と云ふ事 又限テ 後合始々 命 一いつまの
燈出ハ其月其季の季始と云 其席の事
考ら美と云 準ハ 自比思ふも 始不
合付ハ 雜始と云 今ハ 其席の主意の之始を柱
角 其以テ 他人 南季の始と云 其挨拶と云
今ハ 其も 南季不百合付ハ 雜始と云 始の挨拶
の意と云 今ハ 亦三と云 此ハ 南季の始と云
不始を 挨拶の事と云 今ハ 亦也 附と云

挨拶の銘 今ハ 一版の事 今ハ 南季と云 其
月ハ 今ハ 物と云 今ハ 亦ハ 始と云 今ハ 始合と云
今ハ 候と云 今ハ 要と云 今ハ 春秋 季の始と云 三種
今ハ 種始と云 今ハ 命 多人 数の付と云 五七種と云
今ハ 始と云 今ハ 命 多人 数と云 五七人の
今ハ 事 小人数 三五人の事と云 各別 多人 数と云
今ハ 退屈と云 今ハ 命 今ハ 其時と云 又別 今ハ 仕法と云
今ハ 命 略と云 今ハ 其々の始と云 今ハ 命 今ハ 命

一 高季より飛半形 其北在季より
二種上種より高季より 其北在季より 二種上種
三 五種上種より高季より 其北在季より 二種上種
四 五種上種より高季より 其北在季より 二種上種
五 五種上種より高季より 其北在季より 二種上種
六 五種上種より高季より 其北在季より 二種上種
七 五種上種より高季より 其北在季より 二種上種
八 五種上種より高季より 其北在季より 二種上種
九 五種上種より高季より 其北在季より 二種上種
十 五種上種より高季より 其北在季より 二種上種

一 高季より飛半形 其北在季より
二種上種より高季より 其北在季より 二種上種
三 五種上種より高季より 其北在季より 二種上種
四 五種上種より高季より 其北在季より 二種上種
五 五種上種より高季より 其北在季より 二種上種
六 五種上種より高季より 其北在季より 二種上種
七 五種上種より高季より 其北在季より 二種上種
八 五種上種より高季より 其北在季より 二種上種
九 五種上種より高季より 其北在季より 二種上種
十 五種上種より高季より 其北在季より 二種上種

結盟と末の人の次方。運子^上其れ結盟
多し吾子より上座より中頃より功者
了上より始り了白なるも結番の事
了し持合る時次方の人、初年持合
りしより其方ありしに合をきつた年
を辭退しよ有合も人様又元の人の
山付様より再し辭退するも其れ
有合する時其れ不及なる人の結番

と油断をなす事ありし心持
す半の香盆ありする結合と考ふる
要し事々其悟りありし六十一種名香
在り又辭退の人有り上座の人結する時後
盆思ひ打ち其れ不結盆中次方
そ一句の^順うちあり名香結時其れ
未せん人の様一其れ其れ其れ
は所限ありて名香と結半とを隔る

とて名を尋ら何れも今一應承りしとて二迄
先の中一とて終る為事終合の時隔り
不及なり又辭退の時一とて終る可合香の時
とて元の人乞ふ一先路の人其以て未
梅標とて先路よりけりたるは終る香標と
終る一とて終るの意なりとて先路と
捨るなり何れ名香とて又とて不終り又終り
四季兼神終終教つとて定の香教の一種

不足付に及及辭退しるに不有合時とて
一とて終合と終合年定の内一種なりとて
一巻の瓶も不即年ぬ梅標の少なり不及也
其時と先路と終合より終合と終るなり
とて先路と不捨終り了るなりとて
不即合時と終合年定の内一種なりとて
とて終るなり未梅標と終る右両標ありとて
近世に思へり事なりとて梅標と終るなり

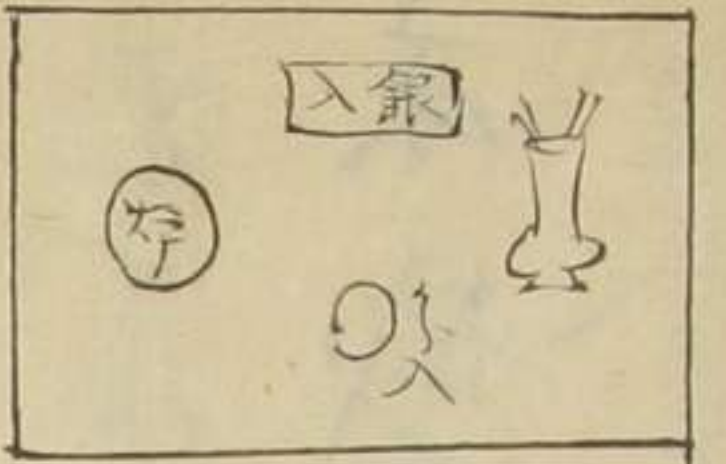
氣色多物附とくくんを古待古歌よき
とのり不用朗依又いこ舞待或はほか物倍伊勢
物倍多人一肩の歌昔人の待年別らもの
取半ちりまよのふ附ら其心解らる見
こ一表たひくこのころるくくん老き所附
方よち世ま舞あり天象地理植物虫魚陣物
奇感同土種七種つまろく小人歌くは三種
くく附るよあふりまいよの天象の三種

五種くくふり名所と一巻の内一ヶ所あり教有
當之流くくく季まふみ季をくくを待是半
ちる折く土種七種あり吟く一巻の
ふりち世ま舞ありくくせん高あり炬燵く
まのま一後文と書半あり是非待まは
時をよよ半のひくくくく有るく
の半よあふりくく思く唯吾病く不病後文の
中くま歌くたうく又待ありと揚巻の二種

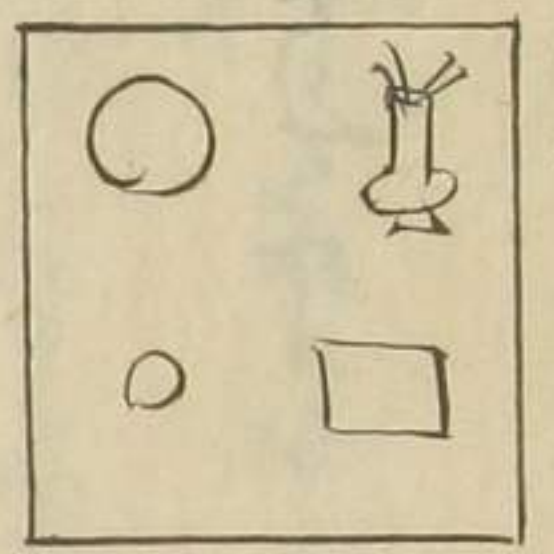
一 其の後に其の事とわし 執事會簿
 一 其の事と有る 代者好よしとあり 又後日
 一 此の事 年号 月日 有る 代書の人 功者
 一 内より 事務 秘紙と奉書 抄写の事あり
 一 二つ折 折紙 硯蓋 入金 救護 徳皇 御つり
 一 多財 直り 子 紙 折紙 徳皇 御つり 書 硯蓋 代
 一 子 煇合 記 書 片 表 子 三種 書 御 裏 紙
 一 四種 書 御 代 未 編 檀 沈 印 未 出 其 事
(備書 片 折紙 硯蓋 回 三 卷 下 依 正 記 面 香 銘 取 三 卷 下 九)

徳皇御 一 折り 子 折り 十 段 會 の 記 録 の 事
 一 三つ 折 水 引 の 紙 と 上 下 二 上 下
 一 出 一 五 記 録 の 事 記 録 の 事 記 録 の 事
 一 一人 救 護 不 定 之 人 五 七 人 其 事 の
 一 事 一 記 録 有 事 の 事
 一 未 撰 物 是 合 有 事 真 中 子 長 子 太 子 同 事
 一 徳 合 事

又四方盆といふ



又総合之



又器物の形より柱をいふ
左右をきくてもう一方は
所要ありつても度々火を
木をとりて用じ

右のしゝしに付垂下年の方より小火取火火為
しと常のしゝしに年
不及併し又床を生花の表
何より餅右付と遠極極のそと夫
かすらと申すなり
一香えもきり主の役と申すなり 不付の儀の付り

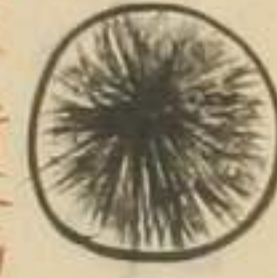




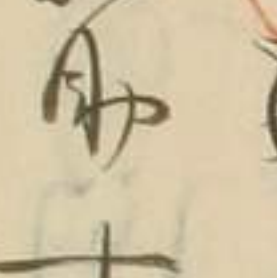
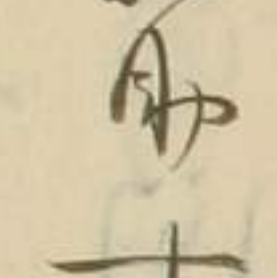
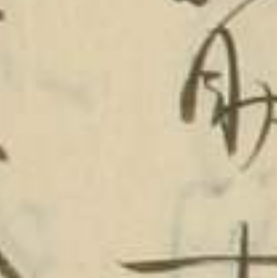
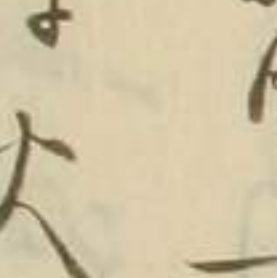
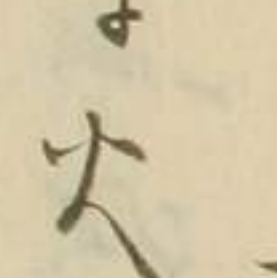

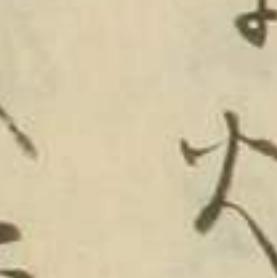



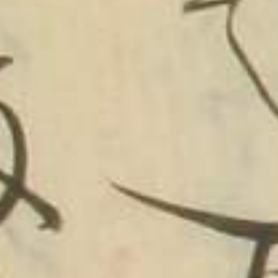


各より付年より物年より有なり 香え又
帛との懐中 有なり 又と腰も
仁者名の居方へさすむと申すなり 一は水
附く年より着付香元此の間より一はと申す
火より香が右より取たの子の香の香と申す
為例のしゝし中括弧をさすみ持之候より備
ある出神紙廻系云 香え一はと申す 又例の如
例の香と申す者なり 香のしゝし
行火取申す候と申すの真中より右、左、等と申す

香をとりて申すは其のしゝし

廣く申す腰ハカサハ腰ハカサハ位ナリ

煎	二ホ 口 香元	
	香元 かま	

次は庭の火着と取灰くま上る年一幸のこゝ火着
 一本^{（虎一本ノ引ワケヨウ堅音ノ通シ）}庭の一本より灰と押多^{（但著目ハ）}
 ひと押くまがて一層ん海^{（オノ）}押く火を^{（オノ）}一層持
^{オノ）}下中灰の付らと拂ぬ^{（オノ）}次又一免

押圓のこゝ^{（オノ）}  如^{（オノ）}  行^{（オノ）}
 又^{（オノ）}  行^{（オノ）}
 但小節の教定^{（オノ）}  行^{（オノ）}
 五^{（オノ）}  行^{（オノ）}
 真の灰^{（オノ）}  行^{（オノ）}
 同^{（オノ）}  行^{（オノ）}
 同^{（オノ）}  行^{（オノ）}
 同^{（オノ）}  行^{（オノ）}
 同^{（オノ）}  行^{（オノ）}
 同^{（オノ）}  行^{（オノ）}
 同^{（オノ）}  行^{（オノ）}
 同^{（オノ）}  行^{（オノ）}
 同^{（オノ）}  行^{（オノ）}
 同^{（オノ）}  行^{（オノ）}
 同^{（オノ）}  行^{（オノ）}
 同^{（オノ）}  行^{（オノ）}
 同^{（オノ）}  行^{（オノ）}

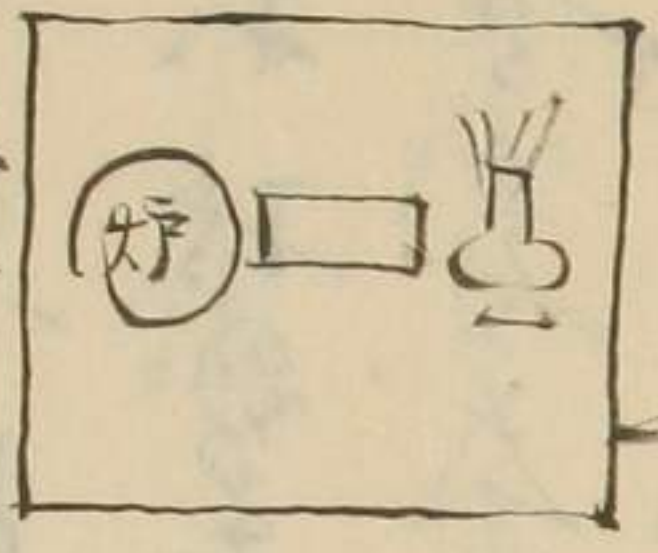
右より左のたのよよましく
五右のよよ限ま入る上り
横より待木ま名取
香炉のたの服下
合試強き耐ま
と香盤の
火蓋して建の
たのよよましく
香炉の右のよよましく
五右のよよ限ま入る上り
横より待木ま名取
香炉のたの服下
合試強き耐ま
と香盤の
火蓋して建の

たのよよ。持ま
香盤の
合試強き耐ま
と香盤の
火蓋して建の
たのよよましく
香炉の右のよよましく
五右のよよ限ま入る上り
横より待木ま名取
香炉のたの服下
合試強き耐ま
と香盤の
火蓋して建の

香包ハ香炉上巻、まじりて
香包ハ香指ニ収
香指元ノ
香包ハ香指ニ収
香指元ノ

一亭主毎本と少本とすうをわらひしを毎に
 少本の上今一廻廻きなり 記録の人印着るをえ
 至りすのしつ返きよと揚る本もあれり
 今一廻廻きなり 一其始のしつおのりえん
 時香えり今一廻すなり 香下り五世の木
 香をしつとえ返きよと揚るしつの上の
 方少本若建、ふりし香下り入返き入返き
 取持きなり 右より 核の持合の真中より五世建

右より兩耳とえ持平して片耳と持返き合
 右のしつとえなり 五世のしつ



かくの如し紙付右のたの角し左の向の角と
 ちよと紙付し 執事の人しつと 若くはし 盒茶
 ちよと ちよと 持合し ちよと 持合し 持合し
 盒茶とて 香紙とて 不食 盒茶の時茶

川よや香指のいしきと出—右の枝より
扱て焼香を取出—右の膝服を半半始り
以て建と出—限をよ入と出き半—始の如く香指
盒のて中—も限をよ入と出き半—盒の右の角の
存る五の糸持取糸始のこ— 箱たの角の
あまは香指と出—限をよ入と出き半—大合紙
半—箱盒をよ入と出き半—はる半—香指と出
若建、よま半—試半等には始り— 盒をよ入

入送る包紙はるし香指の上を—これ—す上
巻盒を送る事—香指等々も—是—は
も事—香指と出き半—紙の枝取時等—は
指右半—限をよ入と出き半—香指と出き半
す—限をよ入と出き半—始のこ— 紙付
未だ不明—紙付も半—救自のこ—上巻の事
い—る時—事—是—は揚香も—は
指あ—る—主才—は暖く焼く—は

主ふく又より揚子にたつてあつて上客より
祝儀を贈る入上客一通りの香煙を享せ
て揚子とつづき有財多の各所要する扱
揚子所て金高きまゝなる所其限を出入香煙
始の如くししむるは以て銀を出入香煙と
其のちえのをも並身に金の高きたのり
二つ刻のうちに金たつて入香煙と銀と文の
香煙の内入から金の中二つ刻の右の方より

本より角よりけり注出をむは時上客より煙を
但し紙付と香具形物の時よりは式に及具色
を合せ物より用ひて南東の紙又時代お業
格好を物おひ合せ紙より平紙とた紙の時
に紙より先より紙のきり紙のし
地紙の上の通も五限を文の目りり又客方
より會釋して香煙より一所より出るとり半
も有る見合する扱上客より紙に有る紙と

香粧もさきんふねは式々一ツ香粧也
と用ひる事あり其時きま心ゆくサ
(左前、右、中、袖、襟)
身と廻り香粧を私物のそりき
(正面、側、背面)
香粧半
と上下花六持玉一元のきまき
五帛百出— 五丁たのよま持たのる胸と
さき右後— 右とさき又た後してたの
さきとさき右後— 右のさきとさきと
さきとさきとさきとさきとさきと
さきとさきとさきとさきとさきと

胸ノバックキ左キカ上ノ方ヲ持イワテ下ニサリ足ヲヤンテリ正面足上各ハナキ時
を廻りて不残さぬさき持て上各半
帛とたの袂ハ又腰に^{腰ハナキ時}是合より上各
以孔有りおえ有半— 香粧も及次は
香粧の病の有無蓋然等の半で身不残色
海へ亭主と了付右へたのきとさき
其れ有香粧持ち— 香粧も廻り始の
袂付盆ぐおえ始有— 香粧も
記録上なるおえ香粧も— 香粧も

手、折入けらるる事、若磯おと、餅付、身、如常
香え、火、取、折、至、餅、付、え、の、せ、よ、付、香、の、こ、し、
おれ、首、他、保、る、る、所、下、役、の、人、結、り、し、故、せ
り、る、命、先、古、概、く、の、こ、し、事、お、き、し、
か、く、く、に、本、く、く、き、何、せ、の、お、思、出、し、き、付、
ら、名、替、ら、い、池、又、有、る、交、り

様、家、藏

右、燈、合、の、紙、書、と、香、片、を、入、せ、京、師、の、傳、り、
真、重、く、腰、に、し、り、香、金、を、し、り、し、お、せ
あ、く、香、印、な、く、つ、せ、あ、く、あ、く、あ、く、
此、真、重、の、門、人、と、燈、合、の、付、と、し、り、お、せ
享、和、三、年、癸、亥、の、春

香、片、
香

干、原、弘、化、三、丙、午、其、五、月、十、七、日、折
京、師、傳、吾、身、時、之、欽、燈、合、式、相、傳、口、授、而、日

真行記保別載之 草菴 貞晴 郭公伯及夕涼軒

羅扇永春 千代のついで晴

草の毛を海々々々 扇又ちよりのついで

而故山之後得古田重剛君所秘之倭合式同合
三冊模写之

同年七月一日

真光寺

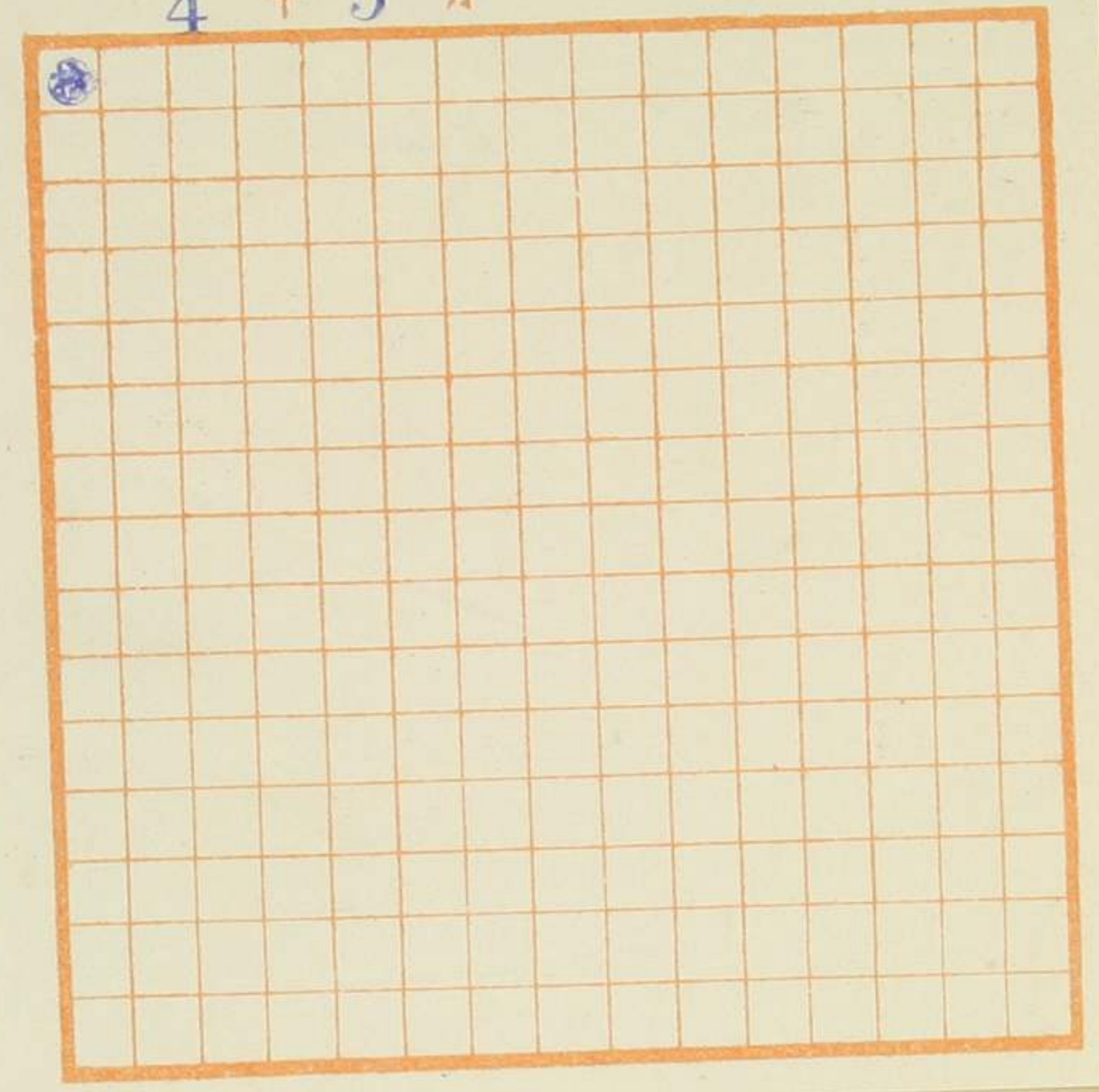
月将

馬

朱唇八安政二年二月廿五日於名古屋百菴
峰吾信社女先生口授記之云モノナリ

月将

4年5月



真行記採別載之 草菴 自晴 郭公伯尼夕凉月将

羅扇 永春 十代のついで晴

草の先を採りて 房を又ちよりのついで
うまき 甚せし 道

而飯山之後得古田重剛君所秘之倭合式同合
三冊摸写之

同年七月一日

真意寺

月将

馬

朱卷ハ安政二年二月廿五日於名古屋百卷
峰吉信外女先生口授記之主モノナリ 月将

